

出されたものに感謝しておいしく食べる

校長 武井 正明

作家の伊集院静は、子どもを、高価な鮎屋に連れて行くべきではない、と言った。また、社会人なりたての若僧が、グリーン車になど乗るべきではない、とも。私は、氏の言いたいことの一端が、理解できる。

他人様が出してくれた料理に、ウンチクを並べて難癖つけるのは感心しないが、するにしても、最低限自分でカネを稼いで、その金で飲み食いするようになってからだと思う。そして、どんな時も、どんなものでも、楽しく食事ができる能力は、その内容以上に、その人の品格に拠るところが大きいと、私は思う。つまり、食べ物に対する感謝の念だ。



その点、今回の吉中2年生の、修学旅行中の食べっぷりは、見ていて実に気持ちよかった。作り手の人たちに、彼らの表情を見せてやりたいくらいだった。

初日の東海道新幹線。車中で頬張るお弁当。笑顔で、隣席の仲間と、会話と景色とを楽しみながらゆっくり戴く。

「おいしい？」に満面の笑顔で「おいしいです!!」と応えてくれたあなた。君の笑顔を見て、本当に連れてきてよかったと、私は心の底から嬉しくなりました。



二日目、京都都ホテルでの夕食会場。

これもテーブル毎に、既に用意されている料理にみんな興味津々。この好奇心とワクワクこそが若さの象徴だ。楽しみすぎて、拍手が自然発生し、否応なしに盛り上がる。

食事が始まったら、みんな食欲旺盛、すぐにお替りの列だ。メニューに文句を言う人など誰もいない。みんなで感謝して、楽しく会食している。新潟のコメの方が旨い、などと野暮なことを考えていたのは私だけだった。この雰囲気、本当にいいね!! 食事がさらに旨くなる。こっちまで幸せな気分になった。

最終日の嵐山昼食会場。ひとりひとりの座席にIHの鍋とは驚いた。ここでの食事も、みんな賑やか（騒がしい、ではない）で、楽しい時間してくれた。



もう今日で、出発した日から一週間が経ちます。

楽しいことは来るまで遅いけれど、過ぎるとあっというまだね。

今回も、いい人達と、いい時間をすごさせていただきました。ありがたいことです。